



未来の子どもたちのために

桑原としひこ通信

平成28年(2016年)8月25日発行 Vol.4

討議資料

平成28年6月議会 一般質問

みなさん、こんにちは。今回は6月議会での一般質問の内容を掲載いたします。

平成23年に起きた東日本大震災に続き、今年4月には熊本県において最大震度7の地震が発生しました。また近年は地球温暖化に伴う異常気象により、大雨による水害や土砂災害、更には大雪による雪害が発生しています。

沼田市は片品村南部から東部に存在する片品川左岸断層があります。その地震規模はマグニチュード7を予測しています。そこで今回は、本年2月に修正された「沼田市地域防災計画」について一般質問をいたしました。

1、沼田市地域防災計画について	質問内容
●指定避難場所について	①指定避難場所の配置及び規模と備蓄内容について ②今後の防災協定の方針について ③災害時の通信用等の電源確保の方法について
●未来の防災について	①防災の新たな担い手の創出について ②自主防災を軸とした市内産業の支援について

Q1 「指定避難所の配置及び規模と備蓄内容について」お伺いをします。

A1 沼田地区は10施設で収容可能人員3,220人、利南地区は5施設1,480人、池田地区は3施設740人、薄根地区は5施設980人、川田地区は3施設510人、白沢地区は4施設1,100人、利根地区は25施設2,120人、市合計で55施設、1万150人の収容が可能となっております。また、備蓄内容につきましては、ペットボトル飲料水、アルファ米、クラッカー、救急箱、毛布などを、地域を考慮して市役所、沼田中学校、沼田東中学校、利南・池田・薄根・川田各公民館、白沢・利根両支所及び、利根支所出張所の10箇所に備蓄しております。

Q2 「今後の防災協定の方針について」お伺いをします

A2 災害時に、何がどれだけ必要になるのかは、災害の規模により違いがあるため、なるべく多くの業種の事業者と災害協定を締結してまいりたいと考えております。

Q3 「災害時の通信用等の電源確保の方法について」お伺いをします。

A3 災害本部となる市役所におきましては、防災機器専用の「軽油エンジン」による発電機を、また、代替本部となる沼田市保健福祉センター1階には「LPガス」による発電機を設置しており、利南・池田・薄根・川田の4地区公民館には「ガソリンエンジン」によるポータブル発電機を常備し、非常用電源を確保している状況であります。電源確保ができない状態でも避難所からの情報発信が可能となるため、市といたしましても可能な限り、多くの指定避難所施設に設置していきたいと考えております。

Q4 「防災の新たな担い手の創出について」お伺いをします。

A4 防災に対する新たな発想を持った若者や企業を応援できる体制整備について、今後研究してまいります。

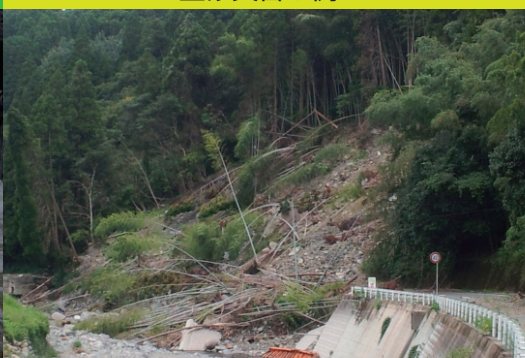
Q5 「自主防災を軸とした市内産業の支援について」お伺いをします。

A5 「市民や企業が己のこと」として自主的に防災を考え、結果として「個々の利益」「地域の防災」「雇用による人口増加」「市税の増収」とつながれば、すばらしい相乗効果になるものと考えております。

水害の例



土砂災害の例



雪害の例



夢を実行する!

先日、私は愛知県清須市に防災の件で視察に行っていました。

清須市の人口は約6万人で、沼田市と人口的にはほぼ同じくらいのまちです。周りには山がなく、平坦な地形をしています。平成12年に起きた「東海豪雨」により大きな水害が発生した地域です。

清須市では、製パン会社が標準流通在庫として災害協定を結んでいます



ガス充填所



非常用発電装置



配送車はプロパンを搭載

清須市でパンを製造している会社の営業部長の話を聞くことができました。

この会社では清須市と災害協定を結び、約6万人分の小麦粉や冷凍パンを標準流通在庫というかたちで、保管備蓄しているそうです。災害時にはいち早く地域の指定避難所にパンを届ける事が可能です。

また災害時では電気や都市ガス等が寸断

されてしまう為、社内に非常用発電装置や、プロパンガス充填所を完備し、配送車はプロパン燃料とガソリンの併用車両でした。

当然清須市は、それまで市外の業者に委託していた給食用パンの全量や、公的施設の食材をこの製パン会社に優先的に依頼しているそうです。このモデルを参考にすれば、民間会社にとっては売上の向上につながり、人材雇用や納税が増えます。「今後の災害対策の方針」は、沼田市内の企業と一体となった取り組みや、構想が必要だと感じました。

災害時に活躍するプロパンガス併用自動車を開発した民間企業



清須市視察時に、私は自動車整備工場の若い社長の話を聞くことができました。その内容は通常のガソリン自動車に「プロパンガスシステム」を追加して取り付けるプロパンとガソリンの自動切替式併用自動車です。タクシーの燃料はそのほとんどがガソリンより安いプロパンガスを使用していますが、この燃料を一般市販車で利用可能にし、コスト削減をしていく計画でした。単純な作業でしたが、プロパンとガソリンを搭載するため、走行距離は2倍になります。東日本大震災や熊本の震災ではガソリンや軽油の給油制限がかかりましたが、そういった際にも十分活躍が期待できます。また、その先の発想はまさしく「未来の防災計画」でした。道路が寸断されるような災害時では電気も都市ガスも寸断されます。その際に自分の自動車と発電機を接続し、電力を発電させるという画期的なものでした。当然経営者側からみれば、少子化時代このまま何もし

なければ車の修理も減っていく、経営危機感が新たな発想をつくり、結果防災への新たな担い手になっていくと感じました。こういった技術を早期に取り入れる事で近隣都市に新技術の取組みを発信していくこともできると考えます。

廃棄されているバッテリーを再生し、災害時非常用電源を利根沼田テクノアカデミーに設置しました



災害時非常用電源



インバーター



太陽光発電パネル

神奈川県にて、産業用として廃棄されているバッテリーを新技術により、再生することで太陽光だけでは不可能な夜間の電力確保が可能、つまり24時間運用が可能でした。沼田市における災害時の業務継続計画を考えていくと、まず災害時における通信網を確立させる事が必須です。この工法を実証する為に、利根沼田テクノアカデミーにて設置したところ成功しました。

今後は、このシステムを沼田市内の企業の方々に説明し、「防災の新たな担い手の創出」につなげ、いち早く御紹介した3つの取組みを沼田市で実行していきたいと思います!

あとがき

今年もあじさいがきれいに咲きました。私は青いあじさいが大好きで今回の絵をかきました。あじさいの花言葉は「団結」です。沼田市も団結して発展するよう頑張ります。

桑原としひこ後援会

沼田市町田町257 TEL.0278-23-0400 Fax.0278-25-3072
<http://www.facebook.com/kuwabaratoshihiko>



絵花シリーズ④ あじさい